



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト 高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指しています。今年度は、高知市立義務教育学校土佐山学舎(後期課程)で行われた教材研究会と授業研究会の様子を紹介します。

高知の魅力発信グローバル人材育成事業(R5~R6)
 土佐山学舎では、本事業の拠点校として、今年度、1学期「授業づくり講座」、2学期「小・中・高合同授業研究会」、12月「Discover Kochi Project(ポスターセッション)」に取り組み、令和6年までの2年間で、小・中・高の12年間の学びの系統性を意識した教科経営(カリキュラム・マネジメント)を推進し、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成を目指します。

領域「話すこと(発表)ーウ」 第8学年 単元名 My Future Job NEW HORIZON English Course 2 Unit3 (東京書籍)

前期課程と後期課程の9年間におけるCAN-DOリスト形式による学習到達目標

- 第4学年: 自分の将来の夢について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。
- 第7学年: グローバル問題や地域の問題に関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。
- 第8学年: AIやUDIに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。
- 第9学年: SDGsに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。

単元ゴールの目指す表現例(b基準)

Thank you for your letter. You said that digital art programs are useful. I agree with you. When I went to a design company on Career Day, I used digital programs to draw. Art usually takes a long time to make, but I cannot fix my mistakes. AI makes art quickly and easily, but it takes illustrations from real artists to make pictures. I was surprised to learn this. I have many things to learn. It is important to protect artists. But AI is here to stay. It can make work easy, but it is important to use AI responsibly. What do you think? (104語)

授業研究会 3/7時間目 <協議の視点> 英文を読んで捉えるための指導は、本時の目標を達成するために適切であったか。

本時の目標 AIについて書かれた記事を読み、私達とAIとの共存について考え、話すことができる。

展開

- AIで作成した画像の鑑賞
- 単元、本時のゴールの確認
- 前時の振り返り内容の共有
- 投げ込み教材とチェックシートを使って、概要と要点把握(個人)
- チェックシートに記入した答えを、本文中から根拠を示しながら確認(全体)
- Pair Talk 1 エッセイの問いかけに対する自分の考えを英語で伝え合う(ペア)/グッドモデルの観察
- 本時のゴールの再確認
- 再考1 タブレットで、⑤で話した内容に、DVDの内容や、職場体験学習でのインタビュー内容経験を踏まえて再考
- Pair Talk 2 ペアを替えて再度発表
- 中間指導1 Pair Talkの内容と前時の振り返りをもとに、ALTから役立つフレーズ等について提示

生徒に示す目標: お互いの考えを知るために、AIについて書かれた記事を読み、私達とAIとの共存について考え、話すことができる。

Pair Talkと再考を繰り返す中で、発表内容をブラッシュアップ

単元目標
 多様な考えに触れるとともに、自分の視野を広げるために、現代社会におけるAIの進歩に関する様々な英文を読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを連携校の高校生に発表することができる。

単元構想

目標
1 単元の目標を理解し、現代社会におけるAIの進歩に関する英文を読んで、現段階で思ったことや考えたことを話すことができる。
2 本文の内容読解を通して、不定詞(原因を表す副詞的用法)の用法について理解することができる。
3 AIについて書かれた記事を読み、私達とAIとの共存について考え、話すことができる。
4 本文の内容読解を通して、不定詞(形容詞的用法)の用法について理解するとともに、私達とAIとの共存について考え、話すことができる。
5 本文の内容読解を通して、It is ... + to + 動詞の原形の用法について理解するとともに、私達とAIとの共存について考え、発表の内容を深めることができる。
6 AIについて書かれた記事を読み、私達とAIとの共存について考え、話すことができる。
7 多様な考えに触れるとともに、自分の視野を広げるために、現代社会におけるAIの進歩に関する様々な英文を読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを連携校の高校生に発表することができる。

Point! 技能統合(読むこと、話すこと[発表])と、学校行事との関連(職場体験学習)、カリキュラム・マネジメントを意識した単元構想

本単元前の学習活動
 ・ 連携校(高知商業高等学校)との交流
 ・ 職場体験先でのインタビュー(AIに任せられない仕事、人の手でやるべき仕事、AIができない仕事)
 ・ 職場体験の事前学習でのAIに関するNHK番組の視聴

教材研究会での協議の視点

英文を読んで内容を捉えるための指導やその後の言語活動の設定は、適切であるか。
 <指導の過程>

- ① 英文を読む → ② 内容を捉える → ③ 捉えた内容について自分の考えを話す

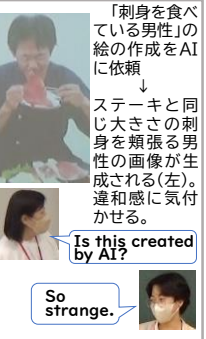
協議内容から

- 読み物教材の内容理解をどのように見取るか
- 読み物教材の最後に生徒への質問が必要

授業研究会に向けて

- 内容理解を見取るチェックシートの作成
- 読み物教材の最後に生徒への質問(問いかけ)を追加

「読むこと」を通して、「事実」と自分の考えや「気持ち」を表現する活動(下線部)を繰り返し行う



「刺身を食べている男性」の絵の作成をAIに依頼
 ↓
 ステーキと同じ大きさの刺身を頬張る男性の画像が生成される(左)。違和感に気付かせる。
 Is this created by AI?
 So strange.

Point! 全国学力・学習状況調査を意識したエッセイ

1 英文を読む

2 内容を捉える

3 捉えた内容について自分の考えを話す

土佐山学舎では、事実(fact)と考え(opinion)を分けて読む活動を7年生から継続して取り組んでいる

「事実」と筆者の考えを、網掛けの色を分けて提示することで、「概要」と「要点」を捉えることができるようにしている。

読み手への問いかけ What do you think?

Point! 画像がマッピング代わり

14 グッドモデルによる発表、振り返り

(上) 3分間、タブレットの画像をもとに発表を繰り返している。

◆授業者より 学習指導案等の作成にあたり、他教科の教員と協力して検討する中で、他教科でも、AIを扱う授業を行うなど、学校全体で共通の学習内容を扱うことで、カリキュラム・マネジメントの視点で組織的に取り組むことができた。

◆参会者より 読むことから話すことへの技能統合された授業実践や、英語の正確性を高めるために、最後に話したことを書くなど、自校で生かしていきたい。

Point! 画像がマッピング代わり

★AI画像生成サイトについて

ワークシートの画像は、Microsoft Bing Image Creator で生成しています。

(上) AIで生成された読書をしている少女の画像。顔がない。

※生成サイトによっては、著作権を侵害するもの(他のアーティストの絵を加工する)もあるので、生成画像を使用する際には、注意が必要です。

ALTを、授業だけでなく、教材作成時も積極的に活用

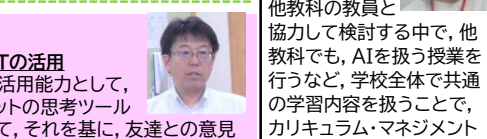
講師講話

- 生徒の英語力 授業中の言語活動と、教師が英語を使用する割合が高く、また、ALTを活用している学校ほど、生徒の英語力が高い。言葉の大切な役割は、自分の考えや気持ちを伝えること。教室は実際に英語を使う場である。
- 言語活動の量と質 複数の領域を統合(例: 読んだことについて自分の考えを話し、書く)した言語活動を多く行った学校ほど、書くことの正答率が高い。他教科、他領域での学び(経験や考えたこと等)を生かすことで、自分事と考えさせる。

***複数の情報の中から、「概要」や「要点」を捉え、読んだことについて、自分の考えとその理由を述べること(技能統合)は、全国学力・学習状況調査大問8でも出題されており、内容面と言語面の両面の指導が必要です。

文部科学省初等中等教育局 教科調査官 入之内 昌徳 先生

- 聞き手を育てる 生徒たちが考えていることを引き出すことができるように、聞き手に、発表等をメモを取らせながら聞かせる。聞き手は内容面に気付くことができる。また、発表内容について英語で意見交流もできる。
 - 生徒の声を拾う 先生が、授業をマネジメントすることに注視すると、生徒たちの声が拾えなかったり、生徒たちの声が聞こえなかったりする。生徒たちに問いを投げ、考えさせて、やらせてみる。英語の学習がしんどい生徒に対して協力的な学びの視点で、生徒同士で学び合いをさせる。先生の役割は、ナビゲーター。生徒が安心できる環境を作るため、ゴールが分かる授業をする。ただし、適切な情報を与えることも大切である。
- 前輪 (＝思考力・判断力・表現力)
 後輪 (＝知識・技能)
 補助輪 = 教師がなんでもお膳立てする
- 坂道・ガタガタ道 (＝言語活動)
 負荷をかけるために、道は平坦ではいけない



情報活用能力として、タブレットの思考ツールを使って、それを基に、友達との意見交流の中で、自分の考えを再構築する。タブレットにワークシートの内容の音声もALTに吹き込んでもらい、生徒に分らなかつた語や、概要や要点にマーキングしながら聞かせたり読ませたりする。デジタルにするのもっと学びが広がる。生徒たちがどのような学びを選択するかという点ではICTを積極的に活用する。